

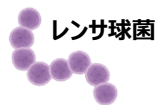
溶連菌感染症について

釧路に夏がやってきましたね。暑い日が続くと体調に影響が出ることがありますので、水分をとり、適度な運動、しっかり休息をとることを心がけましょう。さて、溶連菌感染症は子供がかかる病気と思いがちですが大人もかかります。当院でも溶連菌感染症の方がちらほら出ていました。そこで今回は溶連菌感染症の中でもA群β溶連菌を中心に取り上げます。

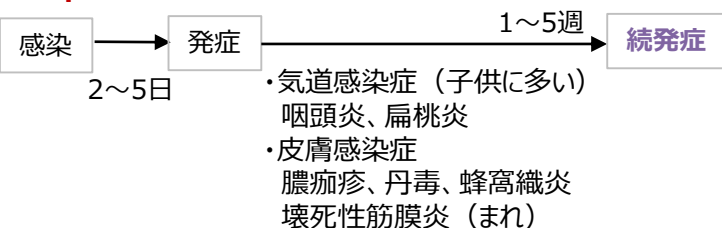
溶連菌はどんな細菌？

鎖のようにつながって配列されているのが特徴のグラム陽性球菌。連鎖球菌の代表格を以下に示します。

- ①A群β溶連菌（GAS）咽頭炎や扁桃炎、猩紅熱、皮膚感染症の原因菌。
- ②B群β溶血性連鎖球菌（GBS）。健康な成人や女性の膣内にいる常在菌。出産時に新生児が産道感染することがあり、敗血症や髄膜炎の原因となる細菌。
- ③肺炎球菌。肺炎や髄膜炎の原因菌。
- ④緑色レンサ球菌（口腔レンサ球菌）



A群β溶連菌感染症の病態



溶連菌感染症の治療法

続発症を引き起こさないために最も重要なのは、**処方された抗菌薬を、自己判断で絶対に途中でやめず、最後まで薬を飲み切ること。**

学校保健法では**適切な抗菌薬による治療開始後、24時間経過し、全身状態が改善し元気になっていれば登校可能**としています。大人は特に決まっていますが、子供と同様に治療開始後、24時間経過し、体調がよくなっていれば出勤は可能でしょう。職場の取り決めをご確認ください。

処方された抗菌薬を正しく、飲み切ることが続発症の予防になります。



続発症

溶連菌の続発症とは、溶連菌の感染が一度治まったように見えた1～5週間後に、遅れて現れる二次的な合併症。菌そのものが悪さをするのではなく、菌を退治しようとした体の**免疫システムが暴走し、誤って自分の正常な組織（腎臓や心臓など）を攻撃**してしまうことで起こります。

代表的な続発症：溶連菌感染後に起こる病気です。

①急性糸球体腎炎

感染から1～3週後に糸球体の炎症が起こります。症状は血尿、顔や足のむくみ、血圧上昇などです。

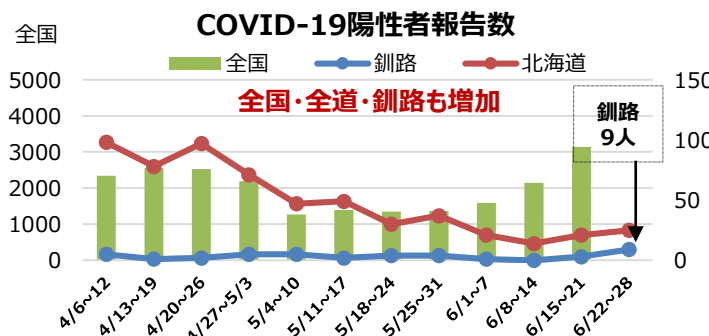
②リウマチ熱

感染から1～5週間後に心臓、関節、皮膚、脳などに強い炎症が起こる病気です。5～15歳の子供に多く、39℃前後の発熱や、痛む関節が次々と移動する激しい関節炎、心臓の炎症（心炎）などを引き起こします。

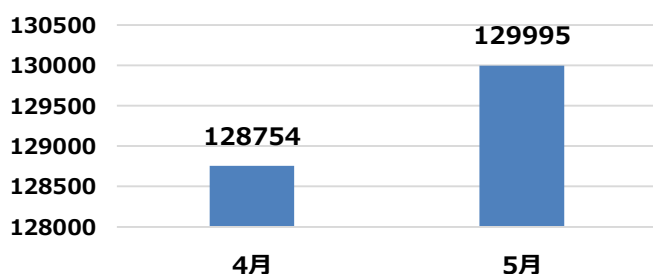


感染対策

溶連菌は飛沫感染や接触感染で広がります。手洗いや、うがいを徹底し、マスクを着用しましょう。家庭内での感染拡大を防ぐにはタオルなどの共用は避けましょう。感染拡大防止には基本的な手洗いや手指消毒、抗菌薬の服用が必須です。



2026年度 4～5月 手指消毒薬使用量



院長コラム



今回は溶連菌感染症を取り上げました。昔からある病気ですが、きちんとした対応が必要です。まずは、外から帰ってきたら必ずうがい・手洗いをする。みんなで徹底しましょう。

新型コロナウイルス感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会は個々の患者さんの状態に応じて対応しています。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。